

氏 名	田代 洋久
学位の種類	博士（創造都市）
学位記番号	第 5784 号
学位授与年月日	平成 24 年 3 月 23 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項
学位論文名	地域ソーシャル・イノベーションの形成メカニズムに関する研究
論文審査委員	主 査 教 授 佐々木 雅幸 副 査 准教授 瀬田 史彦 副 査 教 授 明 石 芳彦

論文内容の要旨

本論文は、持続可能な地域社会の形成に向けた地域課題に対して、地域固有の資源の活用による地域の主体的、自律的、持続的な活動によって、社会的・経済的効果をあわせ持つ新しいしくみと価値の創出を地域ソーシャル・イノベーションとして捉え、①基本概念の提起を行うこと、②関連概念として理論的、実証的な視点からイノベーションの構造、形成プロセス、地域の価値創出に関する検討を行うこと、③イノベーションの形成メカニズムの解明を試みること、④得られた知見よりイノベーションの特質と意義を考察することを目的にしている。

本研究の先行研究としては、内発的発展論、まちづくり論、ガバナンス論、ソーシャル・イノベーション等の多角的視点からアプローチされているものの、包括的な議論か断片的な論点に限定しているのに対し、本研究は、地域づくりの進化を地域ソーシャル・イノベーションの各要素が有機的に結合する動的なシステムとして捉え、地域ソーシャル・イノベーション形成メカニズムに関する総合的な検討を行っている点に研究の独自性、新規性がある。また、地域ベース、多元的主体の参画によるローカル・ガバナンスの形成、社会的事業の3つの視点を基調とするとともに、イノベーションの創出に向けた知識創造環境、主体間の相互作用、地域固有の資源—とりわけ地域性を表象する文化的資源の役割に注目している。

本論文の構成および明らかになった主な知見は以下のとおりである。

第1章ではグローバル化の加速と市場経済領域の拡大による地域格差の拡大や地域社会の疲弊に直面して、新しい地域発展モデルが模索され、欧州の統合型地域政策や欧米の社会的企業論の動向を概観し、その成果と課題を明らかにしている。

第2章では、欧州の統合型地域政策や、包括的で革新性のある地域づくりの高度化の動向を踏まえ、地域ソーシャル・イノベーションの基本概念の提起を行っている。基本概念では、地域ソーシャル・イノベーションの定義、領域と経路依存性、空間範囲、主体組織について論じるとともに、知識創造、社会関係資本、地域固有の資源の活用などの議論を統合してイノベーションの形成という動的な過程へと転換させる3つの基本的視点を提示している。

第3章では地域ソーシャル・イノベーションの形成を、基本概念と「構造・形成要因」「形成プロセス」「地域の価値創出」の3つの関連概念から成る動的なシステムとして捉え、理論的実証的な視点から多角的な検討を行っている。「構造・形成要因」に関しては、基本構造モデルとして地域ソーシャル・イノベーションの構造を示すプロトタイプの分析モデルを考案し、秋田県の農業協同組合による地産地消運動による事例によって検証し、「食」を中心とした地産地消運動と社会的事業の結合は、地域に埋没する資源を連関させ、地域内循環システムの駆動による地域活性化に有効であることを析出した。

第4章での「形成プロセス」の分析は、技術イノベーション等の関連分野の知見をもとに、①知識創造の環境条件、②資源動員の正当化、③普及過程の3つの視点から分析枠組みを設定して、岡山県真庭市勝山町並み保存地区における文化的資源と創作活動を組み合わせた事例研究の結果、地域内の主体間の相互作用による知識創造の連鎖的な生成、地域性と結合する創作活動による地域資源の開発と高度化、地域リーダーグループの存在と行政機関の認知、地域内外からの高い評価が相俟って、地域内の資源動員と円滑な普及に貢献したことを明らかにした。また、住民意識調査等を通して、公民協働による制度的枠組みと文化的資源・要素を基軸に地域の統合化に向かう勝山の地域づくりの特質

を解明した。

第5章では「地域の価値創出」のメカニズムを探る視角として、文化的資源の創造と地域づくりの連関による地域活性化を検討した。経営戦略論とイノベーション論を援用しながら理論的検討を行い、多元的新結合、地域資源・組織能力の蓄積・高度化など5つの要素を地域の価値創出の基本的枠組みとして提示し、越後妻有大地の芸術祭と直島の文化事業の事例によって検証している。文化的資源の創造を多元的な地域づくりと連動させることで、経済、社会、文化性を包含する多元的な価値が連鎖的に創出されるメカニズムを明らかにした。

第6章では得られた成果をもとに、イノベーションの特質と意義に関する考察を行っている。第1に、地域ソーシャル・イノベーションにおける知識創造は、集積を通じた空間的近接性や相互作用によって知識創造を果たす地域イノベーションと類似の構造をもつものである。第2に、文化的資源と要素の役割と機能として、①地域の文化的価値の向上、②文化的資源の多元的な結合による地域の価値の向上、③地域を結束させる力の創出といった多元性が明らかとなった。第3に、地域社会に与える効果として、①地域づくりの方向性の規定、②社会関係資本の蓄積への寄与、③非営利組織間の関係性の変化の促進、④地域課題への地域ぐるみの取り組み機運の醸成といった機能があることを指摘した。第4に、地域ソーシャル・イノベーションの形成メカニズムは、基本概念と関連概念が組み合わさった複合システムであり、各要素が相互に有機的に連結し、統合化されたシステムとして駆動することで、経済的、社会的効果がアウトカムとして創出されることを示した。

論文審査の結果の要旨

本論文は、近年注目されるソーシャル・イノベーションを地域発展モデルとしてより精緻化し、日本各地で展開される地域づくりの事例研究を踏まえて、地域ソーシャル・イノベーションの基本概念を明確化し、その構造、形成プロセス、地域の価値創出の3局面から地域ソーシャル・イノベーションの形成メカニズムの解明を試みる意欲的な力作である。

これにより、先行する内発的発展論、まちづくり論、ソーシャル・ガバナンス論等のアプローチが包括的な議論か断片的な論点に限定しているのに対し、本研究は、地域づくりの進化を地域ソーシャル・イノベーションの各要素が有機的に結合する動的なシステムとして捉えることに成功している。

また、事例研究として取り上げた秋田県の農業協同組合による地産地消運動、岡山県真庭市勝山町並み保存地区における文化的資源と創作活動の組み合わせ事例、越後妻有大地の芸術祭と直島の文化事業の事例分析など、いずれも現地調査やアンケート調査に基づくものであり、統計的处理も適切である。

さらに、文化的資源が地域ソーシャル・イノベーションに果たす役割と機能として、①地域の文化的価値の向上、②文化的資源の多元的な結合による地域の価値の向上、③地域を結束させる力の創出といった多元性を明らかにしており、文化を活かした創造的地域発展論への展開可能性を示している。